ーツを通したＳＤＧｓ目標３の〝すべての人に健康と福祉を〟に着眼して取り組んだことを報告した。

訪問調査を行った団体の活動を通し、子どもの貧困問題について、衣食住の問題への関心は高いがスポーツ分野への関心は低く、さらに広がる格差の要因と課題の深さ・大きさを実感したと指摘。さらに、今回プロジェクト内で行った同大学生への意識調査アンケート回答者数もかなり少数であり、まずは学生への意識付けや興味を持ってもらうための取り組みを継続していく必要があることなどが報告された。

いずれの発表も質疑応答が活発に行われるなど、充実した成果報告会となった。

## 宇都宮大×県産業技術センター　技術人材ジョイントシンポジウムを開催

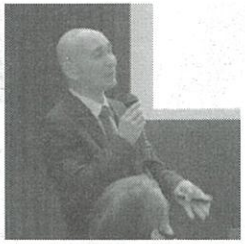
宇都宮大学では3月14日に栃木県産業技術センターで、「宇都宮大学×栃木県産業技術センター　技術人材ジョイントシンポジウム」を開催した。

「国立大学法人が求められている研究基盤の共用」と題した講演を行う松本准教授／機器分析センター長

宇都宮大と栃木県産業技術センターは、昨年9月29日に連携協定を締結し、それぞれが持つ機器の相互利用や人材の交流を図り連携することで、より一層地域産業の課題解決や発展につなげることを目指している。

開会挨拶を行う横田理事

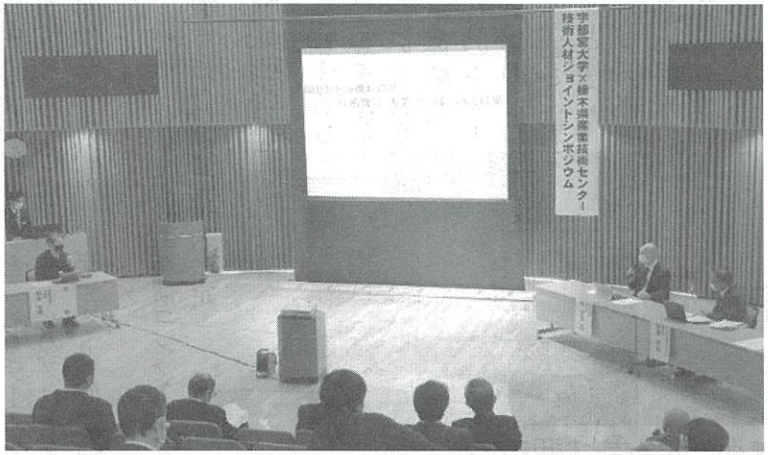
今回のシンポジウムでは、宇都宮大機器分析センターの松本太輝准教授が今回の連携の趣旨や展望を、栃木県産業技術センターの伊藤繁則副所長がセンターの概要などに関して講演した。



「開かれた設備共用が技術職員・大学・地域に与える成果」と題した講演を行う群馬大機器分析センターの林准教授

「産業技術センターの人材・機器等の活用促進について」と題した講演を行う県産業技術センターの伊藤副所長

また、すでに地域間での連携実績がある群馬大機器分析センターの林　史夫准教授を招き、講演が行われた。群馬大機器分析センターのビジョンや、地域とのネットワークの実例、教職学協働のセンター運営など広い視野から充実した連携を行っている実情が紹介された。




会場からの質問を受け付けながら行ったパネルディスカッション

講演後にはパネルディスカッションを行い、宇都宮大の鈴木邦雄理事（大学運営全般担当）の挨拶によりシンポジウムは幕を閉じた。

今後、大学と栃木県産業技術センターを中心に、機器の共用と技術人材の交流を推進し、栃木県内での地域間連携の形を構築することとしている。